



基本領域 精神科専門研修

連携

- 京大精神科専門研修プログラム
- 京都府立洛南病院精神科専門研修プログラム
- 大阪赤十字病院精神科専門研修プログラム
- 神戸大学病院連携施設 精神科専門研修プログラム
- 兵庫県立ひょうごこころの医療センター専門研修プログラム

1. 精神科の理念・特色

公立豊岡病院精神科は、地域の中核的综合病院の有床精神科である。一日外来者数は80名あまりである。急性期対応を中心として閉鎖病棟51床の病床を有する。年間に約200名の新規入院に対応し、電気けいれん療法(ECT年間300件程度)、クロザピン治療など、急性期から難治例までの入院に対応している。

作業療法士1名、公認心理師2名が在籍しており、入院および外来の作業療法、統合失調症の心理教育やアルコール依存症のグループワーク、認知行動療法やマインドフルネスストレス低減法などを実施している。精神科ソーシャルワーカーは3名で、ケースマネジメントを行っている。また、訪問看護・訪問診療(アウトリーチ)にも参画している。

他科との連携にも力を入れており、精神科リエゾンチームにより、せん妄ケア活動等、回診や対診を行っている。緩和ケアチームにも参加している。

また当院は、認知症疾患医療センターの指定を受けており、認知症の鑑別診断や周辺症状の治療等、高齢化の進む地域のニーズにも対応している。

以上、当院精神科は、但馬および丹後西部における、幅広い疾患と患者層をカバーし、急性期からリハビリテーション、地域ケアまでを包括的に提供する、地域精神科医療の中心的な役割を果たし、他科との連携、地域とともに育つことを理念目標として、現在も試行錯誤中である。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

イ. 経験できる診療、技術

高齢化がすすんだ広大な診療圏をもち、3次救急にあたる総合病院の有床精神科である。精神科急性期治療病棟としては、入院は器質性から学童関連まで幅広く対応し、診療圏内の精神科病床への新規入院例の約半数を受け入れている。

認知症疾患医療センターを引き受けて、認知症の鑑別診断や周辺症状への対応を行っている。他科との関係では、リエゾンチームによるせん妄等コンサルテーションにも積極的に対応している。緩和ケアチームへの活動にも参画している。

公的病院であることから警察や行政を通じた事例化にも対応している。刑事精神鑑定(正式鑑定、起訴前嘱託鑑定、起訴前簡易鑑定)の依頼や医療観察法指定通院医療機関として司法事例にも取り組んでいる。

保健所や知的障害者施設の相談診療など地域保健医療での役割も大きい。

京都大学精神科の各専門家(児童、摂食障害、認知症、刑事精神鑑定)とWeb会議システムを用いて症例検討を行ったり、招聘して講演を受けたりしている。

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
午前	8:30~12:00 外来・病棟診療 ECT	8:45~12:00 外来・病棟診療	8:30~10:00 外来・病棟診療 10:00~ 集団精神療法 (アルコール)	8:30~12:00 外来・病棟診療 ECT	8:30~12:00 外来・病棟診療	
午後	13:00~17:15 外来・病棟診療	13:00~15:00 外来・病棟診療 14:00~ リエゾンラウンド	13:00~15:00 外来・病棟診療 15:00~16:00 病棟カンファレンス (新薬・ベッドコントロール、 ECT、クロザピン) 16:00~17:15 医師カンファレンス (症例検討等) 行動制限最小化委員会	13:00~17:15 外来・病棟診療	13:00~17:15 外来・病棟診療	

4. 指導医・スタッフ

認知症疾患医療センター
副センター長
兼部長

三木 寛隆

大学卒業年 2006年卒

専門	臨床精神医学全般, 司法精神医学
認定	精神保健指定医, 精神保健判定医, 日本精神神経学会専門医・指導医, 日本医師会認定産業医, 日本司法精神医学会認定精神鑑定医, 臨床研修指導医

医員 米村 悠

大学卒業年 2019年卒

専門	臨床精神医学全般
----	----------

医員 武中 稜

大学卒業年 2019年卒

専門	臨床精神医学全般
----	----------

医員 南平 眞理

大学卒業年 2020年卒

専門	臨床精神医学全般
----	----------

医員 布施川 佑志郎

大学卒業年 2020年卒

専門	臨床精神医学全般
----	----------

認知症疾患
医療センター長
高石 俊一

大学卒業年 1972年卒

専門	臨床精神医学全般
認定	精神保健指定医

5. 診療実績

疾患別入院数・外来数

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	479	18
F1	121	25
F2	861	81
F3	375	43
F4 F50	954	11
F7 F8 F9	103	35
F6	3	0
その他	105	24

精神科上位疾患・性別 退院患者数

	男	女	合計
統合失調症	20	41	61
神経系のその他の変性疾患, 他に分類されないもの	6	12	18
パーキンソン<Parkinson>病		14	14
うつ病エピソード	2	11	13
双極性感情障害<躁うつ病>	1	5	6
アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	4		4
急性一過性精神病性障害	1	3	4
その他の不安障害	1	2	3
詳細不明の知的障害<精神遅滞>	1	2	3
アルツハイマー<Alzheimer>病		3	3
詳細不明の認知症	2		2
せん妄, アルコールその他の精神作用物質によらないもの	2		2
その他の神経症性障害	1	1	2

(2023年)

専攻医の声

当科での研修では、卒後3年次より主治医として診療に従事することになります。症例は幅広く豊富であり、クロザピンやECT 症例を含め、それぞれに主体的に関与することとなります。科内の雰囲気は明るく、診療における疑問点があれば上級医に気軽に尋ねたり、困ったことがあれば助言を得たりできるサポート体制が整っていますので、安心して研修に臨むことができます。

当院ならではの研修内容として、当院が地域の拠点総合病院であることから、リエゾンや救急科対応などで他科との連携を求められることがあります。また、院外業務として地域の特別支援学校の療育相談なども専攻医のうちに受けています。当地での精神科医療に様々な面から関わることができ、精神科医として多角的な物事の見方を獲得できることも魅力の一つです。

また当地周辺には精神科病院が少ないことから、他院へ転医せずに継続した通院をされる方が多くいらっしゃいます。長期の経過を確認したいとき、紙カルテを含め過去のカルテにアクセスしやすいことも、質の高い精神科研修に有用です。

当地は兵庫県の北部に位置し不便なイメージが先行しますが、但馬空港より伊丹空港に約 35 分でアクセスできること(東京まで約 2 時間)から、各地で開催される勉強会や講習会にも参加しやすいのも隠れた魅力です。

最後に、当科は在籍している医師の年齢層が比較的若く、やりたい事にすぐにチャレンジできるフットワークの軽さが最大の特徴です。皆さんと一緒に仕事をできる日を楽しみにしています。

丸田 咲紀 医師

